

平成 28 年度 テーマ別まちづくり移動町長室 (新しい二宮・イメージづくりプロジェクト)

日 時 平成 28 年 5 月 15 日 (日) 10 時～12 時
場 所 町民センター 2A クラブ室
団 体 新しい二宮・イメージづくりプロジェクト
参加者 17 名

団体の説明など (団体代表者より)

新しい二宮・イメージづくりプロジェクトは、「結婚したら二宮に住もう！」というサイトを 2 年前の 7 月に町民活動推進補助金を受けて立ち上げた。二宮は良いところだから移り住んでもらいたい。

このサイトの中には現時点で 22 組の「移住家族の声」を掲載しており、掲載者の思いには共通しているものがあると感じている。今日は生の声を町長や幹部の方に聞いていただきたい。

意見交換	
参加者	二宮町への移住は結婚がきっかけで、夫が秦野市で勤務、私の実家が鎌倉市のため、車通勤しやすく、実家に近い東海道線沿いということで二宮町に決めた。住んだ当初はさみしいと感じていたが、マタニティ教室や子育てサークルに参加することで友達が増え、楽しく過ごしている。
参加者	移住は結婚がきっかけ。夫が二宮の人だったため二宮町にした。
参加者	元々さいたま新都心に住んでいて、東京に通えて、山と海が近いところを探していた。どうしても東京に通勤したかったので電車で座って通える場所ということで二宮町に決めた。
参加者	両親と一緒に暮らそうということを考えていて、両親は田舎暮らしが希望で、両親の定年を機にいろいろ土地を探した結果、気に入ったのが二宮町だった。
参加者	都内出身だが、母親が先に小田原市に引っ越しており、子どもが生まれたタイミングで西湘に引っ越そうとなり、待機児童ゼロの二宮町に決めた。
参加者	私が千葉県、夫が藤沢市に住んでいた。最初は海沿いの町に住みたくて物件探しを始め、いろいろなエリアを見たが、ごちゃごちゃしていたので段々西へ進み二宮町へたどり着き、古民家風の平屋の家が気に入って決めた。
参加者	率直に言うと二宮は何もない町だと思った。美術館や映画館などの楽しめるところがない。無い無いづくしで寂しくなった時もあったが、町に無くても近隣市町の施設を利用するなどして十分楽しめることが分かった。
参加者	東京に通勤していて出産後も働こうと思っていたが、具合が悪くなり仕事より子どもを優先した。周りの人に助けられ、子育てサークルで出会った人たちが財産となっている。今は、周りの子をちゃんと叱れるおばちゃんになろうと思

	っている。
参加者	最初は暗くてお店がない町だと思ったが、よく見てみると個人商店が多かったり、薬局に自然食品があったりして、いろいろお店があることに気付いた。
参加者	百合が丘に住んでいるが、年配の方が多く、子どもが生まれてからたくさん声をかけてくれる。また小学生も「こんにちは」とあいさつしてくれる。今までこんな経験したことがなかった。自分は何もないと思っていたが、無いのが丁度よくて、夜も人工の光が多すぎないのがいい。 しかし、自然があるのに自然と触れあえる場所がないと感じている。もっと自然と触れる場所があるといいと思う。
参加者	湘南の他市にある不動産会社に勤めていたが、そこと比べても二宮町はがけ崩れや津波、観光地渋滞などもなく、お客さんにも二宮町を勧めたかった。
参加者	東海道線で東京へ座って通勤できる。高速道路などのインターが近くに複数ある。終電も遅くまである。アウトドアが好きなのだが、箱根には1時間足らず、伊豆まで2、3時間で行くことができる。不便なようで意外と便がよい。 自然は残っているのだが子どもを遊ばせる場所がない。自然があるのに手を入れて面白くないようになっている。ありのままを生かすような町づくりをすると、もっと若い世代の人たちは来ると思う。
団体代表	東京有楽町の東京交通会館内に「ふるさと回帰センター」があり、いろんな県が移住促進の催しを行っている。二宮町は今年の1月と3月に移住セミナーに参加し約30分のトークセッションで移住者の生の声を話した。これを機に複数の方々から移住のことなどについて問い合わせをいただいている。今日はその中のおひとりがこの移動町長室に参加してくれた。
参加者	現在、埼玉県に住んでいる者で、移住セミナーへは他に参加されていた別の市の情報を聞くことが目的で行ったが、それまで知らなかった二宮町を気に入った。二宮町には自分が10代だった頃の懐かしさがある。 二宮町に来るのは3回目で、今日、駅から歩いてここへ来るまでの間の雰囲気もいいなと思った。皆さん何もないと言うが、私は便利さを求めている。 移住は夫の退職後だと思うが、心配しているのは住居のことで、いつ空き家バンクに物件が登録されるかホームページを見ている。移住の際には住宅を購入すると思うので、ぜひ空き家バンク充実をお願いしたい。
団体代表	小学生がすれ違う時に「こんにちは」と挨拶してくれるという話があったが、この二宮町に住んでいる人の温かさを感じるエピソードは、取材に行くと良く出てくる。それが財産だなと思っている。
参加者	温かい人が多いなというのは日々感じる。雨の日にハンカチを頭に乘せて歩いていたら、酒屋のおじさんが傘を貸してくれた。
町長	私自身は東京都の日野市で生まれ育ち、二宮町に移住してきた。子どもが幼稚園の頃、海沿いの市町で土地探しをしたとどり着いたのが二宮町。話を聞きな

	<p>がら当時を思い出した。</p> <p>町内の美術館は「ふたみ記念館」だけだが、近隣市に美術館があり文化的な生活はできると実感している。近くに無いと困るものは揃える必要があるが、近隣自治体との連携を考えながら話をしていかなければと思っている。足りないもの、形にしてほしいものなど、皆さんが感じていることがあると思うので知りたい。</p>
政策担当 参事兼企 画政策課 長	<p>昨年行った調査の結果、空き家は約 200 件あり、空き家バンクへの登録をお願いしているが売り手・貸し手が出てこない。出てきても売買・賃借が難しい物件である。不動産会社と個別に話しながら進めていこうと思っている。</p>
団体代表	<p>「結婚したら二宮に住もう！」ホームページ内の「移住家族の声」に出ている方から、今日参加はできないが伝えたいという内容を聞いてきたので紹介したい。</p> <p>二宮駅前前でコーヒー屋をやろうとして店舗を自分たちで改装している最中から、周囲の人たちが声をかけてくれて、人が優しいのだなというのを実感している。また、行政と住民との距離が近く、身近でいい意味でこぢんまりしていて、いろいろ相談ができ、受け答えも杓子定規でなくていいとのことである。</p>
町長	<p>私も 30 年前に来て思ったが、よそ者扱いされないなと感じていた。どんどん入っていくと迎えてくれる。</p> <p>新しいものを取り入れていかなければいけないが、二宮には各地域の子どものお囃子は数が減らず続いている。自然に伝統文化と触れあえる町だと感じている。良さを残しながら今後どうしていくか考えていく。</p> <p>子どもの遊び場について、公園の数はあるのだが、「公園が少ない、遊べない、使えない」という声がある。若い人の公園に求めるものは何か伺いたい。</p>
参加者	<p>中町に住んでいるが地区に公園がない。袖が浦公園には遊具が無くなり、そこに行っても友達に会えないので勝負前公園に行く。どこも同じような公園で、すべり台、ブランコがあるとか、逆になにもないところも多い。ライオン公園や峠公園のように、公園ごとに特徴があっても良いと思う。</p>
参加者	<p>ラディアン花の丘公園ができて、よくみんな行くという声を聞いている。駐車場や図書館があって休むところがあって良いのだが、もともと湧水がありオタマジャクシなどがいたが、水が少なくなってしまっていて残念だと話している。</p> <p>何もない場所、原っぱのような広場があるといいと思う。ボール遊びや自転車の練習ができるような場所がありそうでいて無い。</p>
参加者	<p>住んでいる地区のさらに小地区ごとに公園があるといいなと思う。信号を渡らないと行けないのは子どもにとってはネックである。ベビーカーに乗る子と小学生では公園に対する考えが違う。子どもが小さいうちはすべり台とブランコがあれば、お母さんたちが集い話せるので良かったが、小学生は自分たちで遊</p>

	<p>びに行くとなると遊具があればあるだけ楽しい。</p> <p>ライオン公園は遊具があって、縄跳びやボール遊びができ広くていいので、家族でちょっと遠征して行っている。吾妻山は行くのに少し心の準備が必要だが遊具はすばらしい。幼児向けと小学生向けの遊具がそれぞれあるといいと思う。</p>
参加者	<p>公園は数も必要だが、それぞれの公園に広さがほしい。子どもがしたいことができる場の確保が必要だと思う。小学校を毎日解放したら絶対子どもたちは来ると思う。ラディアン花の丘公園は広さがあるから行くし、親が集う場所にもなっている。二宮町は公園デビューするところがないと思う。</p>
参加者	<p>ハード面を作るというのではなくて、空いている場所の下草を刈って入りやすくすることで、子どもは遊ばされているのではなく、自主的に遊ぶ。自分の小さいころはそういった自然の中で多様性を学んだ。大人の手が入りすぎてなくて、でも危険すぎない場所があるといいと思う。</p>
参加者	<p>子ども自然塾のプログラムで、マイクロハイクや葉っぱをクレヨンで擦って絵を描いた。虫めがねをお父さんに買ってもらって、葉っぱや木の様子を見るという自然に触れる体験をしたら、家でも虫めがねを片手に色々なものを観察していた。そういった機会を増やしていただきたいと思う。</p>
町長	<p>自然も残していくものは残していかないと、開発されてしまうので、その見極めをしないといけない。また、どう生かしていくのかというところは職員だけで考えていくのは限界があるので、民間の活動と連携していかないと可能性は出てこないと思う。どのような形の仕組みでやっていくか試行錯誤している。公園への要望は、遊具、広さなど折り合いをつけ、優先順位をつけながら研究していきたい。</p> <p>定住促進のPRを昨年くらいから東京で実施しているが、皆さんから見て町のPRの仕方はどう映っているか伺いたい。</p>
参加者	<p>ニーノとミーヤの動画がすごく良かったなと思っている。動画に登場する店で働いているのだが、動画を観て町外から訪れたという人が複数来店する。いいイメージづくりができて、みんなに知ってもらえると思う。</p> <p>私たち夫婦は、住んでみて良い町だと思ったので仲間に知ってもらいたかったから町内で結婚式を挙げた。年に数回、息抜きのために二宮町に来る友人がいる。</p>
参加者	<p>若い世代は快適に住める空間を持ちたいという考えがある。古民家をリノベーションするという発想があり、リノベーションOKとする大家を探しているようである。東京の真ん中ではできないと思う。そのことについて踏み出していく必要があるのかなと思う。</p>
参加者	<p>震災後に陸前高田にいたのだが、津波で集会所が流されてしまい、行政負担が増えていた。そこで、木のブロックを使って地元の人と一緒に集会所を立てた。人が集まり力を合わせると、20坪くらいの平屋の集会所をお金を掛けずに作れ</p>

	<p>るし、人の関係性も深まった。こういう体験は、人と人とのつながりの希薄な場所です。そこ求められているのではないかと、東京などで古民家を改修するということをやっている。</p> <p>みんなが共につくることで、人のつながりができていくということに価値があると思う。自分の町をみたらそういうことをしている人たちが周りにいて、もっと自分の町でちゃんと生きていこうと思ったので今日ここに来た。</p>
参加者	<p>住む家や店舗も立派なものを作るのではなく手作りでというのが若い人の感覚なのではないか。若い人は、古いお店を全部借りるのではなく、3分の1だけ貸してほしいとか、週末だけでいいという人がある。リノベーションというのは、若い人たちの感覚だなと思っている。</p>
参加者	<p>陸前高田では元々、台風で屋根が壊れたら、昼食をごちそうするから一緒に屋根を直してとお願いする「結」や「講」というコミュニケーションがあった。そういうつながり方を求めている、これが空き家を舞台にできれば楽しいと思う。二宮町を見てみたら、既に同じことをやっている人がいて、二宮町はすごいなと思っている。不便さをどう楽しみながら改善させるかという、人とのつながりが大切だと思う。みんなですると手間が愛着に変わる。その舞台がいっぱいあるといいなと思う。</p>
町長	<p>話を聞いていて民間と行政がどう連携できるかなと考えていた。民間ではない公共施設とか、どこかで連携の可能性があるといくつか頭に浮かんだ。</p>
政策担当 参事兼企 画政策課 長	<p>リノベーションについて町内の取り組みを紹介する。県住宅供給公社の団地に若い人に住んでほしいという思いから、マイリノベーション制度を始めようとしている。そこにみなさんの知恵を入れていただきたい。</p> <p>町はつなぐことはできると思う。自分でリノベーションをしていると、プロに頼みたい部分が出てくるはずで、町内工務店などとも連携した協力ができるのではないかなと思う。</p>
参加者	<p>公園のベンチが汚れているなら、ベンチを作れる人が集まってイベントとして作るか、要望するだけだとお金の問題があって難しいので、自分たちが作れるものは作っていく。作ったことによるリスクは自分で負って、管理もしていく。自分たちができることはやっていく仕組みに変えていく。</p> <p>そこで分からないのは公園の法的な問題のことで、そこは教わりながら進めたいと思っている。</p>
参加者	<p>団地のリノベーションについては、「改装したい方、変えたい方、私たちと一緒に改装しましょう、手を貸しますよ」などとすれば、引っ越してきて孤立することもないし、いろんな人とつながることができる。若い人だったら来るのではないかなと思う。セット売りをしたらすばらしいなと思った。</p>
参加者	<p>漆喰塗りをやるにあたって、近隣の方に手伝ってくださいと話をしたら手伝ってくれた。そうすると、何かあれば手伝ってくれた方のところへ行くとか、近</p>

	<p>所の子には「家にお父さんお母さんがいない時は、うちに来ていいんだよ」とか言える関係性ができて、この町に住んでいる安心感につながっているなど思うし、それが大事だと思う。</p>
団体代表	<p>都会から二宮に来ることを考えている人は農業をやりたいと思っている。本格的な農業と家庭菜園の中間くらいの大きさをやりたいという声がある。いま情報を整理して発信していこうと考えている。</p>
参加者	<p>農家になるわけではないが、他に現金収入を保ちながら、自分で食べる分プラスアルファの作物を作ることをよく半農半エクスと呼んだりするようだが、自分の知り合いにもそういう方がいる。</p>
町長	<p>市民農園や家庭菜園は別として、農家から個人的に農地を借りるのは法的に認められていない。町としてはふれあい農園をやっているが広さはないので、どう広げていくか考えている。NPOのような法人格を持っているところが農地を借りて市民に貸すことは法的に問題ない。</p> <p>一方で、農家にとっても、町が仲介に入ることによって安心感がある。これを調整するのが課題である。移住者に「市民農園も付いています」とPRするのも手だと思っている。</p>
参加者	<p>ふれあい農園を年間1,400円で借りている。地域の風土に合った固定種を育てたい、農薬を使わず育てたいと思うので農業のセミナーがあるといいと思う。これも集客力になる。</p> <p>暮らしを自分たちの手で作っていききたいというキーワードは友人の間で出てくる。</p>
参加者	<p>各分野の達人と、それを教えてほしい人がつながる何かがあるといいと思う。海があって山があつていいところだよねと言うが、自分がよく知らない。行きやすい親子連れ限定の企画や地引網、ミカン狩りイベントなど、町民が体験できると良い。町民が知ることによる口コミ・情報発信ができるのではないかと考えた。</p>
参加者	<p>町民に対する情報発信があつて良いのではないかとと思う。子どもがその年代になって初めて知ることがある。町民に対してPRしてほしい。</p> <p>小学校の入学式で教頭先生の「町の宝を私たちに預けてくれてありがとう」という言葉に感動した。この町に来て子どもを育てられて良かったなと思った。すてきな人が多く、そのつながりを密にできたらすてきだなと思う。</p>
参加者	<p>したい暮らしを自分たちで作れる町は魅力的。それを解決する方法はあると思う。欲しい公園をどうやって作っていくか、自分たちでできることは何があるのか、その中で法律面など町民の知らないことを教えてほしい。</p> <p>「家をつくる」も「家具をつくる」も勉強になる。ものを測るのは「算数」、どう組み立てるか、「段取り」も教育につながっていく。学びながら、町にあつて欲しいものを人と人がつながりながら作っていき、気が付いたら自分たちの欲</p>

	<p>しい町が出来上がっている。これは東京には作れないと思うので、そうことを一緒に目指していけたらよいと思う。</p>
参加者	<p>私を含め、皆さん二宮町が好きなのだということが分かってすごく楽しかった。</p> <p>無いことを探すのは簡単という言葉もあるが、二宮町はベースを持っている町だと思う。良い素材をより良くしていくか、どう手を取り合っていくか、自分も協力しながら皆さんと良い町を作っていきたいと思う。</p>
参加者	<p>町の大きさが丁度よい。広報紙を見ていてどこの地域の話か分かる規模のこの小ささが強みだと思う。</p> <p>町外へ目を向けてもいいが、同時に住んでいる人たち同士が好きだなという話をして充実していると、町外の人が何かの折に触れ、この町いいねと来たくなると思う。議員とこんなに近い町も初めて。そういった強みを生かしていけたらと思う。協力していきたい。</p>
参加者	<p>町民が好きだなというものがあると、外から見て良いところだと感じてもらえると思う。</p>
参加者	<p>子どもがいない世帯の移住の仕方を考えて、皆さんの中にどのくらい入り込めるかなと聞いていた。夫が移住セミナーでの二宮町の移住家族の生の声を伝えるトークセッションに感激していた。以前行った移住フェアでは自治体の人の話しか聞けず、生の声が聞けるのはよいと思った。</p>
副町長	<p>町の良さを感じていただいて嬉しい。公園については、ボランティアである愛護会があり、これは町民が参加する公園づくりであるが、新しいものを作り出す工夫を今後皆さんに参加してもらい作っていければ、いいまちづくりができるのかなと思う。</p> <p>また、きっかけづくりが大事だと思う。人と人とのつながりがこの町の良さだということ、きっかけづくりをしながら伸ばしていこうと思う。</p> <p>今日は皆さんの生の声を聞くことができ感動した。</p>
町長	<p>これをきっかけに、いろんなテーマをいただきたいと思う。</p>